2015年7月号

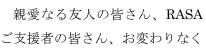
ニュースレター

Vol. 19



SINCE 1985

名誉理事長 ジョン・シーランド





お過ごしでしょうか。私は皆さん方のすべてがうまく行き、 幸せな日々を過ごされていることを希望しながらお祈り いたしております。

- ◆私はまず、「手を貸す運動Ⅱ」の代表、ヨゼフ佐藤様と関係の皆様に、お礼を申し上げなければなりません。その理由は、6月から新学年がスタートしたフィリピン、サウスビル小学校の給食事業費1年分のご寄付を確約頂いたからです。早速、担当の藤井忠子理事が6月22日から25日まで現地に赴き、進捗状況を確認し、校長先生を初め担当教師の方々と打ち合わせをして帰国しました。小学校でありながら6000人を超す児童を抱えるこの学校の50人もの栄養障害児に給食ができることは、神様のお恵みと感謝しております。とても幸せなことだと思います。
- ◆次に、現在の活動と将来のフィリピンでの予定について述べ、ご協力を賜りたいと思います。2014年度は41名のボランティアが参加して、2月にマニラの北約300キロの山奥、秘境とも思えるガリムヨド村のビトン小学校に3つの教室を建設しました。
- ◆学校建設活動の最中ではありましたが、私はアブラ教区の私と同じ神言会の神父オスカー・アルンデイ師と南イロコス州の東に位置する更なる山奥へ向かいました。最初は、車で行ったのですが、大きな川に阻まれて、徒歩で行かざるを得なくなりました。時には深い崖に架かる吊り橋を渡り、ある所では険しい山道から落ちないように、一歩ずつ踏みしめて4時間半余りをかけてバヤバスという集落に到着しました。子どもたちの給食支給活動のために来たのです。この集落では食料が少ないため、ほとんどが「栄養失調症」か、それに等しい状況の子ども達でした。私がここで過ごした時間は、決して忘れることが出来ない経験と

なりました。夕方、村人たちが私たちの計画を聞くために 集まりました。電気がないため、ローソクや懐中電灯、たいまつを使いました。言うまでもなく、私たちの子ども達への給食活動のことを聞いた親たちは、狂喜の歓声を上げたのでした。村人たちは、もちろん自分達の作物を栽培します。ですが原始的な焼き畑農法なのです。厳しい冬は実りません。反対の雨季には、しばしば豪雨に見舞われ作物が流されてしまいます。その夜は、快眠をむさぼりました。私たちは翌朝ポブラシオンという村で再度栄養失調症の子ども救済給食活動の説明をしました。5月26日、私はアルンデイ神父と給食活動のための鍋、釜などの道具や食材を購入しました。1年、いやそれ以上の期間を続けたいのですが、とりあえず4か月間位は大丈夫です。

- ◆私はこの種の人助けの仕事をしているときに、不思議な 感覚と独自の喜びを感じます。この感覚を他の人に説明す るのは大変難しいことです。この感覚を来年の学校建設で も感じたいと強く思います。
- ◆ビトン小学校の建設活動中、理事長の藤井典夫さんとパンガシナンという地を訪れジェーク神父を訪問しました。私と同じ神言会の神父で、2年程前から RASA の建設活動で助けて貰いたい学校を見に来るように、依頼を受けていました。訪ねた学校は木造2階建て、震度2強の地震には耐えられない危険な校舎だと知らされました。70数年前、神言会が地域の子弟育成のために建設してあげた学校だそうです。神言会付属となっていますが、地域の人が利用する唯一の学校で、近くには通学できる学校は他にありません。現地で協議の結果、地元も負担するということで来年春の学校建設地はこの学校に決定いたしました。
- ◆私が是非皆さんにお願いしたいのは、このニュースレターに織り込んでありますチラシへのご協力なのです。円安で建設資金は大幅に不足しています。一本でも多くの鉄筋、一個でも多くのブロックへのご寄付をお願いいたします。一度に限らず、締切日程まで何度でもご協力頂けますとありがたいです。ご寄付の受付目標は300万円です。

平成26年度「特定非営利活動に係る活動計算書 平成26年4月1日~平成27年3月31日まで

特定非営利活動法人RASA一Japan 単位:円 差異 科目 前期決算 当期決算 備考 (資金収支の部) I 経常収入の部 90,000 会員の年会費 1会費·入会金収入 360,000 270,000 1)正会員会費収入 360,000 270,000 90.000 2事業収入 10,780,000 8.707.090 2.072.910 学校建設ボランティア 2,072,910 1)ボランティア派遣事業 10,780,000 8,707,090 3補助金等収入 980,000 100,000 880,000 自立支援NPO 1)受取助成金 880,000 前期はモリコロ基金 980,000 100,000 4寄付金収入 3,927,230 2,786,396 1,140,834 1) 寄付金収入 3,927,230 2,786,396 1,140,834 5雑収入 75,930 152,190 -76,2601)受取利息 843 1,577 -734 銀行利息 バザー入金等 2) 雑収入 75.087 -75.526150.613 516,700 フィリピン災害寄付入金 6災害寄付金収入 516,700 1)災害寄付収入 516,700 516,700 経常収入合計 16,639,860 12,015,676 4,624,184 Ⅱ経常支出の部 0 -186.4041事業費 13,481,775 13.668.179 1)学校建設事業 128,417 10,466,968 10,338,551 2) 奨学金支給事業 1,363,833 1,206,214 157,619 3) 栄養障害児救済事業 -472,4401,650,974 2,123,414 2管理費 2,456,709 1,649,453 807.256 1)会議費 8,601 会議用飲食等 153.829 145.228 航空運賃等 2)旅費交通費 828,421 874,554 -46,133 郵送料等 3)通信運搬費 91,555 74,832 16,723 4)消耗什器備品費 185.791 65.058 120,733 5)消耗品費 381.034 154.237 226,797 事務用消耗品等 6)賃借料 194,614 209,420 -14.806駐車料他 7)諸会費 30,100 30,100 8)租税公課 400 4,700 -4.300収入印紙等 74.265 121,424 -47,1599)雑費 振込手数料 10)災害寄付費 516,700 516,700 フィリピン災害寄付 15,938,484 15,317,632 経常支出合計 620,852 経常収支差額 701,376 \(\Delta 3,301,956 \) 4,003,332 Ⅲ経常外収益 経常外収益計 0 Ⅳ経常外費用 1) 過年度損益修正損 179,214 △179,214 モリコロ基金未使用分返却 経常外費用計 179,214 701,376 \(\Delta 3,481,170 \) 当期収支差額 前期繰越額 7,613,104 8,314,480

コメント (経理担当理事:寺尾嘉泰)

|次期繰越収支差額

・学校建設ボランティアの派遣時期を従来の8月から2月に変更した。その結果か参加人数が過去の平均的参加 人数より10名ほど少なかった。そのため、ボランティア収入が2百万ほど前期より減少した。

4,833,310

3,481,170

- ・寄付金収入も減少傾向にあり、これも前期比百万円超の減少となった。
- ・反面経常支出の内、学校建設事業等の事業費及び管理費用は、前期とほぼ同程度に推移した。
- ・その結果経常収入の減少が影響し、当期の収支差額は3百万円の支出超過となった。

8,314,480

主な活動報告(2014年12月~2015年5月)

- ◆12月13日 2014年学校建設ボランティア第1会研修会(*1)
- ◆ 1月 9日 名電高の男子生徒 4人 RASA でボランティア研修 (*2)
 - 12日 月例スタッフ会議
 - 16 日 認定 NPO 法人事務所調査
 - 24 日 手を貸す運動 II のスタッフ RASA 事務所へ
 - 30日 事務所にてパソコン研修会
 - 31日 2014年学校建設ボランティア第2回研修会
- ◆2月 2日 『なんとかしなきゃ!プロジェクト』のメンバーに
 - 2日~6日 フィリピンサウスビル出張
 - 11 日 手を貸す運動Ⅱのスタッフ RASA 事務所へ
 - 14 日 2014 年度学校建設ボランティア出発
- ◆3月 3日 2014年度学校建設ボランティア帰国
 - 14日 学校建設ボランティア反省会
- ◆4月 3日 学校建設ボランティア文集・DVD 委員会
 - 13日 月例スタッフ会議
 - 19 日 NPO 研修会参加
 - 21 日 NPO 研修会参加
 - 20~25日 フィリピンサウスビル出張
 - 27日 月例スタッフ会議
- ◆5月 2日 学校建設ボランティア参加有志 RASA で集い (*3)
 - 12 日 NPO 講習会参加 ロゴスセンター打ち合わせ
 - 19 日 NPO 講習会参加
 - 20~30 日 シーランド名誉理事長フィリピン出張ビトン小学校竣工
 - 25日 年次総会のための理事会
 - 28日 2015年度学校建設ボランティア募集開始
 - 愛知淑徳大学授業(教育学・入門ボランティア)にて RASA について説明



(*1)



(*2)



(*3)



相山女学園大学からは、学生が 2011 年度より参加しております。私が、2010年の秋より、相山女学園大学のキャリアサポートセンターで勤務するようになって、上司の勧めもあって前学長に RASA のフィリピンでの学校建設活動について説明をしたところ、良い話だと言って下さって、すぐに当時の国際コミュニケーション学部長の深谷教授につないでくださいました。また、私の友人でもある人間関係学部の山本教授も協力してくださることになりました。深谷教授は、

2011年のボランティア活動では1週間フィリピンに来て下さり現地の椙山生の活

動をみてくださいました。それ以来、お二人の教授の全面的な支援で募集が行えるようになりました。

2011年の3名に始まり、2012年18名、2013年24名、2014年度は11名の参加と続いています。特に、フェアウエルパーティのダンスや歌などでは、椙山生がリーダーとして毎年活躍しています。椙山女学園大学の学生にとって、RASAの活動は学生生活のかけがえのない思い出になっていると思います。(監事:山田三郎)

2014 年度学校建設活動 in ガリムヨド

2015年2月14日朝、雪の降るセントレア中部国際空港から、ガリムヨド市ビトン小学校の建設のために総勢41名がマニラに向かい飛び立ちました。香港経由で、そこで揃いのRASAのTシャツに着替えての到着でした。その晩はマニラに宿泊し、翌15日早朝、カンドンに向けて2台のバスに分乗して出発。ガリムヨドに近づくと山道のためバスが入れないので、ライトバンやジープニーに乗り換え荷物はトラックに乗せ、さらに小一時間かけ、到着した頃には日も沈んでいました。それにもかかわらず、市長初め地元の有力者や小学生の鼓笛隊が熱烈に出迎えてくれました。毎回のことですが、ここで2週間生活を共にするホストファミリーとボランティア達の感動の対面をしました。

ガリムヨドは、3つのバランガイ(最少行政区)に分かれています。サンビセンテ、ビトン、アバヤです。朝



晩の食事はホストファミリー宅で食べますが、昼食はバランガイごとに調理し運んで来てくれました。主食はバンブーご飯で、竹の節にコメを入れて蒸し、食べ

る時に割るとホカホカのご飯が出て来るというものでした。 電気炊飯器に慣れている日本人には、衝撃の調理法 でした。

建設現場では、ブロック運び、砂ふるい、セメントの バケツリレーなど、人海戦術の手作業を行いました。今 回から雨季の夏休みではなく乾季の春休みに実施時期を 移したので、雨に作業を阻まれることなく、日中30度 を超える暑さの中黙々と頑張ったのでした。現地の人々 には、経済大国日本の大学生が建設作業員として働くということが信じられないらしく、教育省の役人や村人が作業を見学しにやって来ました。外国人が大勢来るということ自体も、この山奥では初めてのことだったかと思

われます。我々は何しろ注目 されているので、お別れパー ティーのために、こっそり練 習していたはずの妖怪体操も、 子ども達はすっかりマスター



していました。また、地元に伝わる秘伝の民族ダンスも 民族衣装と共に体験させて貰いました。これは、各バランガイ毎に継承されているもので、他のバランガイには 秘密だったようですが、期せずして全バランガイが披露 したため、お互い初めて知ることになったのでした。

建設作業の合間には、学生達が先生役となり小学校で授業もしました。英語・日本語・タガログ語の単語を表にしたり、難易度の高い折り紙を教えたりしました。また、土日には世界遺産を見学したりと、IT機器に追われないゆったりした時間の流れの中でも、充実した日々を過ごしたのでした。一方、マニラの光景にはショックを受けた学生も多かったようです。立派なビルの建設ラッシュの下で子どもが観光客に物乞いしたり、道端で寝ていたり…。スラム街スモーキーマウンテンでの「生まれ



竣工したビトン小学校

ながらの貧困」にも、思うと ころが多かったでしょう。

こうして様々なことを学び つつ、3月3日、一行は無事 帰国し、建設ボランティアは 終了しました。



今回ビトン小学校で新校舎建設中に、前年の建設地カンドン市でお世話になったホストファミリーの方々が多数お見えになり、再会を喜びあいました。彼らは皆異口同音に RASAの活動の素晴らしさ、参加メンバーの勤勉さ、滞在期間中は家族の一員として実に楽しいひと時を過ごせた等々、感謝の言葉を次々と述べられていかれました。彼らの言動は本当

に我々の励みとなり、活動継続の源になっていると実感しました。

又、昨年の活動に参加した I 君が友人を伴い表敬訪問してくれました。久し振りに会った I 君は、すっかりたくましく変貌を遂げていました。彼は帰国後、コミュニケーション力の不足を実感し、語学留学に出向いたとのこと。 RASA のボランティアに参加し、そこで体験し学んだことを自己変革の糧として大きく成長された若い方々を大勢見てきました。学校建設・ホームステイ体験に加え、こうした若い人たちの成長にもお役に立てているということも、我々の活動の大きな喜びの一つとなっています。(理事:本田直文)

学校建設ボランティア帰国反省会報告

RASA-Japan が実施している学校建設のもう一つの目的は、日本の若者に視野を広めてもらい、精神的な成長のきっかけを作ることです。発展途上の国で学校建設の労働とホームステイの体験を通して、先進国とされている日本にいては、分からなかっただろうという思いを語ってもらいました。ピックアップして紹介します。

1.「人の幸せ」について、どう感じ、また思いましたか

- ■お金がある、ないにかかわらず人と人が目を合わせと もに助けあい、歩んでいく。たくさんの愛があれば、人々 は幸せだと感じ、笑顔でいられると感じた。
- ■人の幸せはお金では買えないものであると心から感じた。ホストファミリーや近所の人たちを見て、助けあえる人がいつも近くにいることは「人の幸せ」ではないかと思った。周りの人との良い人間関係は、財産になるのだと思った。
- ■「人の幸せ」には、周りにいてくれる人の存在が大きく関わっていると感じた。日本に帰って来て、水洗トイレ、シャワー、車などがあることも幸せだと感じたが、フィリピンではそれらがなくても幸せだった。そばに誰かがいてくれる、支えてくれるなど、人の存在の影響が大きいと思った。

2. 日本になくてフィリピンにあったもの、フィリピン になくて日本にあったものは何でしょう

- ■家族で過ごす時間、時間的余裕がフィリピンにはあった。日本には快適な施設が多くある。どちらも大切なものだが、日本にあるものは存在を知らなければ必要はないものが多い。
- ■子ども達の無邪気な笑顔がフィリピンにはあった。子どもを近所の人が育てている。日本では携帯やパソコンなどが普及したため、人と直接かかわることが減っている。最近の日本には、近所付き合いがほとんどなく、人間関係がギクシャクして住みにくいと感じる。

3. 「本当の豊かさ」とは何だと思いますか

- ■人が便利に過ごせることではなく、高度な技術がある ことでもなく、人の心に余裕があり、穏やかにすごせる こと。日本のように I T社会、情報に溺れ、追われ、心 に余裕がない状態では、人は心を失ってしまう。
- ■日本人はなぜか繕う。ありのままでいいはずなのに見 栄を張る。地位を気にし、周りの目を気にする。余計な 物で溢れ、本当に大切なものを見失い、働くために生き ている。どうするべきか、今は分からないけど、フィリ

ピンの人々の心の豊かさが本当の豊かさに近いのではないか。



3月14日

平針教会ホールにて

4. 絶対的貧困(衣食が精一杯)と相対的貧困(先進国内 で所得が少ない)という分類があります。解決するには?

- ■貧困の解決は難しい。低所得なため低投資になり生産が拡大せず市場が拡大しない負のスパイラルになってしまう。先進国が介入し経済改革を行っても、日本のような格差が生まれ、相対的貧困が生まれる。経済成長の恩恵を貧困層地域のインフラ整備にまわすなどしないと、二つの貧困からは脱していけないと思う。
- ■「国家は人なり」つまり教育が大事だと思う。義務教育を徹底し、国費留学を拡充することが重要だと思う。
- ■今まで教科書の中で学んだだけでぼんやりとしていた 「貧富の差」が自分の中ではっきりと認識できた。何を するにも一人では無理なので、他者との繋がりが大切。 そのためには、自分をしっかり持つことも大切だと思う。

5. 何を大切に生きていきたいですか

- ■お金、地位、会社、学歴、そういうものが一番大切ではないということを、このボランティアを通じて改めて感じることができた。私はまだ自分以外のことを一番には考えられないが、将来、私を支えてくれた"人"を大切に生きていけたらと思う。
- ■物が溢れた生活が当たり前の日本では分からなかった 本当の幸せ、本当に大切な物が何か、フィリピンに行っ て気付かされた。何でも手に入るのが幸せと思っていた ことが恥ずかしい。しかし、現状の範囲で考えるなら、 人を笑顔にすることを忘れないようにしようと思う。
- ■今、学校に通うことができることに感謝し、身近にある幸せに目を向けられる人間になりたい。人との繋がりを大切にして生きていきたい。

瀧リンダさんにインタビュー(2)

なごや国際交流団体協議会 会長

セントラル ジャパン インターナショナル ソサイエティー 議長



◆1976年に来日されてから、困ったことは?

例えば、日本人ははっきりものを言いません。「難 しい」とは「NO」の意味ですよね。「何もありません が、どうぞ」「つまらない物ですが」と言われたら、 良い物、上等な物がだされます。

会議においては、返事が曖昧で「可能性があるのか無いのか、本当のことを言って」と何度も感じました。

◆その通りですね。日本文化の特徴かもしれません。 他にもありますか?

国際センターに行くようになると、周りは男性ばかりでした。「メシ行きましょう」という言い回しを覚えましたが、女性は使わないと分かりました。名古屋弁や女性言葉などは、外国から来た人には本当に難しいですね。英語は通じないし、漢字は複雑だし苦労の連続です。

初めて覚えた日本語は「すみません」でした。ありがとう、ごめんなさい、どうぞ、など色々な意味で使えます。

◆お子さんも生んで、育てられたのですね。

日本に来てすぐのことで、夫とアパートの隣人に助けられました。隣人は、英語ができたのです。肉じやがの作り方も習いました。二人の子を出産し、6年間は専業主婦として料理や子育てをしました。子育て中いじめもありましたね。小学校の参観日には、皆さんドレスアップして来ていて、これからパーティーかと思いました。少し落ち着いた頃、ボランティアを始めました。

◆国際交流の始まりですね。

YWCA に連絡をし、一日 2 時間家でタイプを手伝いました。IBM のタイプライターでしたね。結局 8 年間、名古屋コミュニティーニュースの発行を手伝ったのです。その後、名古屋市から助成金が下りることになり、なごや国際交流団体協議会が発足しました。1983 年のことです。

また、セントラルジャパンインターナショナルソサ イエティーも 1985 年にできました。

◆どんな活動でしたか。

中部フィリピン友好協会として、国際結婚の問題を多く扱いました。たくさんの相談を受けましたが、日本 100 パーセント、フィリピン 100 パーセントを求めては、どのカップルもうまくいくはずありません。互いに尊重し、文化や言語、生活を尊重しあわなければならないのです。妥協しない人には無理です。ドメスティックバイオレンスなどの場合も、双方に責任がある場合が多いと感じます。みんな同じ人間なのです。良い所を見つけて認め合わないとうまくいきませんね。

◆他にはどんな相談がありましたか?

日本に来て働き、月 10 万円送っている人がいました。そうすると、その家族はフィリピンで豪邸を建てメイドを 3 人も雇って暮らせるのです。そのため、偽装結婚をしたり、偽造パスポートを使ってでも日本で働きたい人が出てくる訳です。しかし、日本に両親を呼びたいと思っても、偽名では肉親と証明できないため、元の名前に戻したい、という相談がありました。子どもが生まれても出生届けが出せない、4 人の子どもがいるが全員お父さんが違うケースなど、本当に色々な相談がありました。解決方法を、夜寝ていても考えていました。母子家庭で問題があっても、家族を大切にし明るいのは、フィリピン人の良いところでもあります。

◆大学でコーディネーターもされたとか。

愛知淑徳大学で、18年間インターンシップの導入授業を担当しました。ワシントン DC で1カ月間ホームステイをしながら障害のある子ども達の施設と関わるプログラムでした。英語のみの授業を12回行い送り出します。帰国した学生は大きく成長しています。お金では買えない財産ですね。その後も大学院や一流企業に入ったり、公務員になったりしていました。

◆ところで、ご趣味は?

華道です。自由なところが気に入って、草月流をしています。花と話をするのが好きなのです。

◆ありがとうございました。

サウスビル栄養障害児救済事業

6月22日から25日まで、フィリピンのサウスビルに出張し、6月に新たな体制でスタートした栄養障害児への食事提供の様子を視察してきました。今回は、飛行機の荷物重量制限ぎりぎりまでクッキーや石けん、ノート、鉛筆、画用紙などのご寄付で頂いたお土産をトランクに詰め、希望に胸を膨らませながら出発しました。というのも、今年度からは、サウスビル小学校の校舎内で行えることとなり、校長先生が責任者



になってくださったので、不安の要素が少なかったのです。

マニラのホテルから 朝8時に出発しました。 暑い日でした。小学校

に着くと、アイーダ・V・マラーニャ校長が待っていてくれました。すでに、フィナンシャルレポートやメニューも整えられ、食事をする子どもの身長・体重を測ったリストもできていました。今後、このリストに家族構成や親の職業を加えて欲しいと依頼しました。

対象の子どもは1~3年生ですが、例えばある2年 生の子は、身長 98 センチ、体重 11 キロという小ささ でした。日本の小2の子どもの平均を調べますと、平 成 25 年データでは身長 130 センチ、体重 28.5 キロく らいとなっています。いかに栄養不良か、お分かりい ただけると思います。皆、制服も何とか調達していま すが、兄弟のお下がりか近所の人に譲ってもらったの か、サイズが合っている子は一人もいません。一様に ブカブカで服の中で体が泳いでいるようでした。今後、 3 カ月に一度、身長・体重のデータを貰うことになっ ています。栄養状態が改善されることと、期待します。 校長先生によると、サウスビル小学校の場合、欠食児 童は全校 6000 人余りの児童のうち、1500 人くらい、 そのうちのもっとも状態の悪い子ども 50 人を選んで 受給児としてくれたそうです。まだまだ、支援を必要 としている子どもは多い訳ですが、ある程度改善され



た子どもは更に状態の悪い子ど もと入れ替える予定です。心が

゚おいしかったです。ほんとう _にうれしいです。 痛みますが支援には限界もあり、地元の方々の自助努力によって、地域全体が底上げされる ことを期待しています。

食堂に当てられた教室は、清

潔でテーブルクロスもランチョンマットもあり、カーテンも学校負担で新調されていて、良い雰囲気になっていました。前年度からの設備もすべて移送され、なんと冷蔵庫は職員室に置かれていました。食材の盗難



予防のためでした。

食事の時間になる と、子ども達がばら ばらと集まり始め、 全員揃うと並んで手 洗い場に向かいます。 先生に消毒用せっけ

ん水をかけてもらい、よくこすって手を洗い、ペーパータオルで拭いていました。しかし、その紙を床にポイと捨てるので、拾ってバケツに入れてみせると、全員バケツに入れるようになりました。フィリピンでは、街中でもそうですが、ゴミをすぐポイ捨てするのです。排水路の入り口にもゴミが詰まっていて、スコールが降っても水が溢れてしまう様子をよく見かけます。

さて、この日のメニューは野菜と豚の塊のスープ、ご飯、バナナ、ジュースでした。3回までおかわりがゆるされています。食事をする



子どもの表情は、真剣そのもの。学校は教室が足りないため午前と午後の2部制ですが、校門の前には登校・帰宅前の子どもを狙ってスナックやお菓子、軽食を売る店がずらりと並んでいます。食生活の貧困さが覗えます。皆さまのご支援に感謝しつつ、RASAの給食を通じて、栄養・衛生への理解やマナー向上を目指していきたいと考えています。

たくさん食べられるので、これから大く きくなります。ありがとうございます。



ご支援に心より感謝いたします(2014年度分 敬称略)

《会費》岡野まい 武田敬博 高橋道夫 上野宏 浦野聖 岩塚さおり 井上須美子 西脇艶子 藤岡千恵子 今泉美穂子森野秀樹 森野直子 相澤あつ子 粕谷靖彦 近藤百合子 平子由美子 深谷輝彦 浅野清子 茂木タミ子 山田由美子山田三郎 苅和美保子 安岡美智子 青山銑三 渥美麻衣 山本克英 岡野健司 石原綾子 山本澄江 出水智子 鬼頭美位子中野拓馬 渡辺あや 伊藤千佳 三田洋子 井上泰子 寺尾嘉泰 瀧リンダ 瀧佳弘 高田由美 本田直文 永田久枝 久冨育子大串和江 芳賀進 杉山玲子 ヨハネ・シューベルト 菅井惇子 小林あゆみ 森川信子 高鍬明美 日野泉子 岡部美代子山田和子 澤田佳代 増尾淑子 平見ロウルデス 稲熊壮二 山田孝子 ガニエ・グレン 永井信介 藤井典夫 藤井忠子ジョン・シーランド

《寄付》 浜西洋 - 浜西三春 三好紀子 大島恭子 岩塚さおり 井上須美子 西脇艶子 ドミンゴス・スザ 河野ミチ 上野宏藤吉妙子 湯川千恵子 乾純子 高橋道夫 杉浦まり 藤井敏子 船橋真喜子 今泉美穂子 森野秀樹 茂木タミ子 山田由美子山田三郎 苅和美保子 青山銑三 山本克英 立川以久子 上村喜久子 梅原理子 永井信介 水野京子 山本千恵子 片岡惇子前田りん子 下妻昌子 水野善正 井澤昌宏 石原綾子 山本澄江 鬼頭美位子 中野拓馬 三田洋子 井上泰子 寺尾嘉泰瀧リンダ 瀧佳弘 高田由美 永田久枝 久富育子 杉山玲子 菅井惇子 小林あゆみ 岡部美代子 澤田佳代 武田敬博榊原孝 増尾淑子 平見ロウルデス カトリック南山教会 ヨハネ・シューベルト 吉田順子 カトリック平針教会 成井元太大串和江 安場淳 稲垣孝子 松山千恵 一木アグネス 川崎アリシア 舟木アナリン 井上マリサ 江良ローリーリ Edo 夫妻川出レイシー 平井マルシプ 堀田マリア 木下裕夫 近藤百合子 木村陽子 鈴木道子 河本奈津代 川根優子 ユニバーサル基金 伊藤理恵 杉原智寿 重盛宏仁 村田仲子 佐野礼子 田中まゆみ 田中さくら 南山大学教授会 伊藤美恵子 カトリック膳棚教会 田平正典 間川政司 カトリック豊島教会 ロゴスセンター 廣田佐知子 宮口京子 佐藤也須子 佐藤逸子 小島和子三原容子 山本善彦 中里千代子 工藤牧夫 ドミニコ会聖ヨゼフ修道院 有持忠博 カトリック本郷教会 村瀬葉子 岡崎勝代日本キリスト教団豊田教会 井上花絵 川澤篤子 カトリック吉祥寺教会 杉山宏 鴈澤千佳子 相澤あつ子 八木みずほカトリック池田教会 川原美代子 麻生麗子 カトリックに川教会 安岡美智子 山本純子 成井尋江 カトリック鳴海教会山田孝子 ジョン・シーランド 藤井典夫 藤井忠子



スタッフ紹介

◆山本良治さん

私は、平針教会で藤井 さんご夫妻と一緒にお祈 りしております。一昨年、 平針教会で学生さんによ るRASA活動の説明会 に出席し、何かお手伝い

出来れば良いなと考え、この活動に参加させていただく様になりました。まだまだ活動の内容、仕事の手順等理解しておりませんが、教えていただきながら学んでいきたいと思います。何卒宜しくお願いします。

編集後記■昨年初めから日々準備をして参りました、 認定 NPO 法人取得の最終段階で過去の書類が整わず、 申請を取り下げました。平成 25・26 年度を対象とし て再申請をします。RASA の活動が貧しいフィリピン の子ども達のため、また、日本の若者の成長に役立つ ため、スタッフ一同仕切り直しを決意しました。

■2009~2014 年度迄の 15 年間に参加ボランティアは延べ 545 人、建設学校数は 25 校となりました。この活動ができますのも、皆様のご理解のもと、ご支援を継続戴けたからです。学校建設資金の裏付けがないとボランティア募集活動も行うことはできません。スタッフも学生が精神的に成長していくのを、身近に見て参り、この活動の重要性を感じています。今後ともRASA をよろしくお願いいたします。(F・T)

特定非営利活動法人 RASA-Japan 理事長 藤井典夫

事務局 〒468-0014 愛知県名古屋市天白区中平2-2627 TEL.FAX 052-803-1649 e-mail:info@rasa-japan.com HP:http://rasa-japan.com ゆうちょ銀行:00890-4-31185

RASA の活動は、皆さまからの会費や寄付によって支えられています。

平成27年度の会費納入をお願いいたします。寄付もお待ちしております。